

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

全問マーク式

分量・難易 (前年比較)

○分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

大問4題, 解答数39 ([I] 問5は試験当日訂正により削除指示) で, 概して大きな変化はない。全日程を通して大問4題, 解答数は40, 45, 50 (1大問の解答数10または15) のいずれかの構成で定着している。

○難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

標準的な設問もみられるが, 難問をはじめ客観的な判断根拠に乏しい設問も含まれる。また, 大問および小問ごとの難易差が大きい。高校の教科書の範囲外の内容も出題され, 近畿圏の私立大学では難易度が高い。

出題の特徴や昨年との変更点

日程による出題傾向に大きな違いはない。系統地理分野3題, 世界地誌分野1題の大問構成の場合が多く, 地理用語・地名の選択や, 文・項目の正誤判定などの設問が中心となっている。地図や統計表, グラフなどが使用されることも多い。また, 地形図や地理院地図の読図問題も, 例年, 複数の日程で出題されている。大学入試の問題としては稚拙な設問が多く, 高等学校の教科書で学習した内容の定着を試すような出題が他大学と比べて少ないため, 学力が得点に反映されにくい傾向にあるといえる。昨年との変更点はとくにみられない。

その他トピックス

とくになし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式	災害のさまざまな事項	災害に関する用語とそれに関連する用語, 自然現象と災害, 防災に関わる施設, 関東地方における自然災害伝承碑 (火山災害, 地震, 土砂災害) の分布などについて問われた。問2(1)のラニーニャ現象と日本の気象への影響については季節が明示されていないため内容が曖昧で, 形式も下線部2か所の正誤を判断する必要があり, 得点が取りにくい。問4も客観的な判断根拠に欠ける設問といえる。	難
II	マーク式	地形図やフィールドワークにもとづく地域の考察	武蔵野台地とその周辺におけるフィールドワークについてのリード文, 自然地形の分類図, 地形図, 新旧地形図が示され, 地形の高度や形成時期, 神奈川県中央部の広域地名, 地形図の縮尺, せきの役割, 地形図からの地形・土地利用・地図記号などのよみ取り, 開発と地割について問われた。地形図の読図技能と関連する幅広い知識を要し, 解答にも時間がかかると思われる。	やや難
III	マーク式	都市および住居問題	都市や住居問題に関する用語や項目と, それに関連する用語・項目・地名のうち最も不適当なものを選択する。設問の形式は単純であるが, 標準的な用語や地名の知識を要する。(3)の買い物難民の発生は, 高齢化の進展する先進国の大都市の一部でみられることもあり, やや判断に迷う設問といえる。	標準
IV	マーク式	中央アジア5カ国とその周辺諸国の地誌	中央アジア南東部とその周辺の地図が示され, 6カ国の説明文から国の位置を選択する設問のほか, 山脈名, 油田名, 炭田名, 移動式住居名, 民族衣装名, カースト制の特徴について問われた。問1は, 文章の内容から国名判断ができたとしても, 地図では多くの国で国土全体の形状が示されていないなどから, 位置を選択する際に迷うものもあったと推測される。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

まずは教科書・用語集・地図帳などを活用し、基本から標準レベルの知識の正確な習得を行うこと。その上で、本学では発展的な内容のものも出題されるため、資料集・統計集などを使ってより詳細な知識の習得や最新の地理的情報に敏感になるなど、知識の幅を広げておきたい。地理用語・地名などを正確に覚えるのはもちろんであるが、学習を進めてゆく際には「なぜそのようになるのか」ということを意識しながら、さまざまな地理的事象の要因や背景などを理解し、論理的な思考力を身につけておくことが重要である。さらに、本学の日程を問わず過去問をできるだけ多く解くことで、新たな知識の習得と実戦力の向上につながる。問題を解いた後は、必ず解説を熟読しその考え方を確実に身につけ、関連事項なども調べて知識の幅を広げることに努めておきたい。